



安全安心な社会を創る建設技術を紹介します！

第24回 茨城会イブニングセミナー

主催：(公社)土木学会関東支部茨城会

土木学会関東支部茨城会では、都市空間の安全安心を創る様々な建設技術について、最先端の研究者・技術者をお招きして勉強する会を広く一般に公開しています。業務との関係を考慮しまして、仕事帰りに勉強できるよう、夕方 18:00 開会のイブニングセミナー形式を取っています。私どもが安心して暮らすことのできる社会を創るための建設技術を多くの方々に知って頂きたい、参加費は無料とし（会場準備の関係上事前登録制）、技術者の継続学習への貢献を考え、希望者には土木学会 CPD 単位をお渡ししております。この度は下に示す講師による講演を企画いたしました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。どうぞお気軽に参加登録を頂ければと存じます。

○開催日時：2022年2月4日（金） 18:15～ 受付：18:00～

○場所：(一社)茨城県産業会館 2階研修室（水戸市桜川 2-2-35）

○プログラム：

18:15～ 開会

ごあいさつ 土木学会関東支部茨城会 会長 小柳武和（茨城大学名誉教授）

18:30～20:00（質疑応答含）

演 題：いばらきの郷土づくりの物語 - 「海門橋」「勘十郎堀」 -

概 要：那珂川の河口に架かる「海門橋」は、明治 28 年に渡船に換わり初めて木橋が建設され、その後、幾多の損傷や落橋を経て、現在、赤く色づけされた 5 代目の鋼製ランガー橋（アーチ橋）が架設されている。この変遷の中には悲しい歴史が秘められている。特に、これまでの木橋に替えて、当時の土木技術の粋を集め昭和 5 年に竣工した鉄筋コンクリート製 4 連アーチ橋の第 4 代海門橋は、待望の永久橋で東洋一の規模（スパン長）と美しい姿を誇り「虹の架け橋」とまで称賛されたアーチ橋であった。

しかし、那珂川河口の深い軟弱地盤のため、橋脚が上部工の荷重に耐えきれず沈下し、僅か 8 年後の昭和 13 年に落橋している。

また、「勘十郎」は、江戸時代の中頃、涸沼から巴川（茨城町海老沢～銚田市紅葉）を結ぶ約 8 km の運河として、水戸藩が計画し建設に着手した。当時、東周り廻船は難所であった鹿島灘を迂回し江戸に到達するために、海老沢、紅葉間に陸路を挟むルートを通っていたため、積荷の積替えなど不便で多大な労力を要していた。そこで、この間に運河を造り輸送の合理化を図ると共に、藩では通船料を徴取し財政の健全化を図ろうとした。しかし、この事業には運河掘削の困難さや労働者処遇の問題、船の運行形態の不便さから完成に至らず頓挫する。

いずれも地域の期待を担った巨大事業であったが、悲しい結果に終わっている。

この歴史に秘められた建設の背景や当時の技術を紐解きながら、現代における技術的評価を試み、今に残された教訓を探る。

講演者：1. 「海門橋」について 茨城会調査研究部会 部会長 澤島 守夫 氏

2. 「勘十郎堀」について 茨城会調査研究部会 鈴木 信之 氏

20:00～20:20 全体討論

20:30 閉会

○参加費：無料（事前登録制、連絡先は下記）

○特典：希望者には土木学会 CPD 単位が発行されます（申請中）

○申込方法：下記ウェブページより参加登録をお願いいたします

<https://forms.gle/EpgT1Fy5X6xLyGUt6>

○申込期限：2022年1月24日（月）

※定員に達し次第、締切とさせていただきます

○連絡先：〒316-8511 日立市中成沢町4-12-1 茨城大学工学部

土木学会関東支部茨城会事務局 担当：曾我部

TEL / FAX : 0294-38-5160 E-mail : sogabe.natsumi.0123@gmail.com



(公社) 土木学会関東支部茨城会では、感染症対策として以下の対策をすることに努めます

- ◆受付にてアルコール消毒を設置
- ◆会場・ドアノブ・机の消毒徹底および定期的な換気
- ◆主催者によるマスク着用、手洗い、うがいの徹底および体調・健康管理
- ◆会場への入場前、利用中において周囲との社会的距離を保つよう表示・周知
- ◆受講者へのマスク着用、手洗い、うがいの励行
- ◆以下の事項に該当する場合は、参加はご辞退ください
 - ・発熱、咳、咽頭痛、味覚障害などの症状がある場合
 - ・COVID-19 感染症陽性と判明した方との濃厚接触がある場合
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察機関を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合
- ◆COVID-19の感染状況により、イブニングセミナー開催の延期もしくは中止のご案内をする場合がありますことをご了承ください